

さいたま 来ぶらり通信

Contents

祝1周年! さいたま市岩槻人形博物館……………1,2 本棚ぶらり テーマ「人形」……………3
第21回現代短歌新人賞/図書館の本は大切にお使いください……………4

わがまち

はっけん

Sai発



祝1周年!



さいたま市岩槻人形博物館

2021（令和3）年2月22日で開館から1周年を迎えたさいたま市岩槻人形博物館。さいたま市の新たな文化施設として、全国的にもその名が知られるようになりました。そこで今回は、館の見どころやコレクションの一部をご紹介します。



「人形のまち」岩槻に誕生

「人形のまち」として知られる岩槻。埼玉県と人形の歴史は江戸時代にまでさかのぼると言われます。節句人形の産地として全国区になったのは、昭和の高度経済成長期のこと。当時300軒近い工房と問屋が軒を連ねていたそうです。さいたま市岩槻人形博物館（以下、人形博物館）は、人形にゆかりのあるこの地に、2020（令和2）年2月22日にオープンしました。人形を専門に扱った公立の博物館は日本初のことです。



人形博物館の外観。本を開いて伏せた山のような形状の切妻屋根が特徴的。歴史的風土との調和を考慮して設計されている。



にしぎわてきほ 西澤笛畝のコレクションがメイン

人形博物館内の随所で、西澤笛畝（1889 - 1965）の名を目にします。日本画家でありながら、人形玩具研究者としても高名で、没後に遺族が故人のコレクションを引き継いで開館した笛畝人形記念美術館（埼玉県越生町）の収蔵品は、じつに約7,000点を数えたそうです。笛畝の業績については『さいたま市岩槻人形博物館コレクション名品選』のなかで次のように語られています。「人々の暮らしのなかに根付き、時に懐古趣味の

対象とされてきた人形や玩具に光を当て、学問や芸術のスタンダードの一つとして普及させようと尽力した」

笛畝のコレクションは、先の笛畝人形記念美術館の閉館に際して岩槻人形共同組合に譲渡されました。そこから資料的価値の高い3,500点あまりが人形博物館に引き継がれ、現在、人形博物館のメインコレクションとして、訪れる人を楽しませています。



伝統的な人形作りの工程がわかる

館内の展示室では人形ができるまでの伝統的な技法を、専用の道具などを交えて紹介しています。なかでも目を引くのは雛人形の「頭作り」の製作工程模型。黄土色をした桐塑生地とうその頭から始まり、段階的に美しく仕上がっていく様子わかります。「人形の印象が決まる」とも言われる重要な部分が頭なので、一つ一つの工程にかける職人の想いが伝わってくるようです。

頭の原料は、現在は石膏が主流ですが、かつては桐粉（桐のおが屑）が使われていたというのも驚きです。



伝統的な頭作りの模型写真。桐粉と専用のりを混ぜて粘土状にし、型で抜いて乾燥させる。これを桐塑頭と呼ぶ（写真左）。髪を植え付けて完成（写真右）するまでには、多くの工程を経なければならない。

一度は観てみたい！ 人形博物館の傑作3選

学芸員の岩田明日香さんのご協力のもと、人形博物館の代表的なコレクション3点を紹介します。

※コレクションは作品保護のため、定期的に展示替えを行います。常時展示されているわけではありません。



多産の犬は安産のシンボルだったことから、犬笛は婚礼道具として用いられてきました。犬のフォルムに子どもの顔が描かれた不思議な姿で、通常一對を成し、内部に物を収納できるようになっています。きらびやかな装飾のなかには、縁起物の鶴亀や松竹梅が描かれていて、よく見ると、小さな鶴の雛も丁寧に描かれています。



江戸時代 左：29.5cm 右：29.0cm



御所人形は公家や武家などの贈答品として用いられていました。その特徴は、白く滑らかな肌で、おおよそ3頭身。弾力が伝わってくるかのような、ふくよかな姿形



江戸時代 36.7cm

をしています。本作は御所人形のなかでは比較的手足が長く、古い様式とされています。腹掛に施された鳥居などの刺繍は、謡曲「三輪」をモチーフにしていると思われ、厳かな雰囲気漂います。



立雛は雛人形の最も古の様式とされています。高さ60cmを超えるものは珍しく、胴体は紙製。丸顔に引き目、鉤鼻が特徴で、本作の愛らしさにもつながっています。衣装には鶴亀などの吉祥文様が描かれており、めでたさを醸し出しています。



江戸時代 男雛：61.5cm 女雛：45.2cm

岩田さんに聞く、鑑賞のポイント

『人形鑑賞』と言うと、難しく思われるかもしれませんが、家族や友人と一緒に、雛祭りや端午の節句を祝うときのような気分で、気軽に来館していただければうれしいです。人形の表情や仕草、衣装の文様や刺繍などに注目していただくと、鑑賞の楽しみが広がりますよ。来館者の中には、お気に入りの人形ができて、展示中に何度も通っていただく方もいらっしゃるほどです。また、雛段を常設しているので『ここに来ればいつでも雛祭りの雰囲気が味わえる』と喜んでいただけることも。身近な“人形”だからこそ、愛着を感じていただけるのかもしれない」

参考資料

『さいたま市岩槻人形博物館コレクション名品選』
さいたま市岩槻人形博物館／編集・発行 2020年
『さいたま市岩槻人形博物館ガイドブック』
さいたま市岩槻人形博物館／編集・発行 2020年
写真提供 さいたま市岩槻人形博物館

さいたま市岩槻人形博物館

<https://ningyo-muse.jp/>

〒339-0057 さいたま市岩槻区本町6丁目1-1

TEL 048-749-0222 FAX 048-749-0225

開館時間 午前9時～午後5時

(閉館時刻の30分前までに入館してください)

休館日 月曜日(休日の場合は開館)、年末年始

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示を一部休止しています。

※観覧料や臨時休館日などの情報はホームページや電話でご確認ください。